Yokkaichi Nursing and Medical Care University

四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.10

[発行日]平成28年12月20日　[発 行]四日市看護医療大学　庶務課
〒512-8045 三重県四日市市萱生町1200　TEL.059-340-0700　FAX.059-361-1401　http://www.y-nm.ac.jp/

東海地域で数少ない学部における助産師教育への取り組み

落合富美江　教授

本学では、「看護師」の国家試験受験資格のほかさらに所定科目の単位取得により「保健師」または「助産師」の国家試験受験資格も得られます。

本学での助産師教育への取り組みについてご紹介いたします。

助産師とは英語でMidwife=with woman「女性とともにいる」という意味です。助産師は女性や家族に寄り添い、生涯にわたる女性の健康を支える専門職です。

助産師の教育は現在法律的には1年以上となっており、助産師になるには1年コースとして、専門学校、大学卒業後別科、専攻科、大学での選択コース、2年コースとして大学院教育と助産師になる道は多岐にわたります。全国的な傾向として助産師教育は大学卒業後の別科、大学院での教育へと移行する学校が多い中、本学は東海地区では数少ない大学教育の中で助産師国家試験受験資格を得ることができる大学です。学部教育での必修科目以外に助産師国家試験を受験するのに必要な科目を選択することで助産師の国家試験を受験することができます。

本学での助産師課程は定員10名になっています。履修希望者の選考は3年次2月に履修希望者を募り、3月に選考試験を行い決定いたします。助産師課程の科目は以下の通りです。

3年前期の助産学概論と地域看護活動論Ⅲは助産過程選考試験の前に履修しておかないと選考試験を受けることはできません。

現在4年生助産課程の学生は10名です。入学時から助産師を希望してきた学生もいれば、母性看護学の授業を受け助産師を希望したものと学生の志望理由は様々ですが、助産師になることへの思いは本当に強く、現在、学生たちは大変な助産実習を行っています。助産師になるには1人の学生が10名のお母様方の協力を得て分娩介助をすることが法律で決められています。妊娠、分娩、出産後までのケアを医師・助産師の適切なご指導を受けながら産婦に寄り添い適切な助産診断とケアを学んでいます。

学生たちの努力は本学の国家試験の合格率に現れています。開学から現在まで助産師国家試験合格率は100%です。彼らは臨床助産師として産婦に寄り添い安全で安楽なケアを実践していることでしょう。

本学は学内学外の実習施設が充実し、カリキュラムとして段階を踏んだ助産教育システムにより、効果的な助産師教育を学生に提供しています。ぜひ本学の助産師教育へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

・講義科目	助産学概論	2単位	3年前期
	地域看護活動論Ⅲ	2単位	
	助産診断・技術学Ⅰ	2単位	4年前期
	助産診断・技術学Ⅱ	3単位	
	助産診断・技術学Ⅲ	1単位	
	周産期医学	2単位	
	助産管理	1単位	
		計13単位	
・実習科目	助産学実習	9単位【4年通年】	

平成28年度四日市看護医療大学・大学院 入学式

平成28年4月2日(土)本学10期生及び大学院6期生の入学式が挙行されました。

当日は、四日市市副市長をはじめとした市立四日市病院長、同看護部長、三重県看護協会副会長のご来賓と多くのご家族の方々に見守られながら、学部生121名、院生3名の新入生が新しい学生生活のスタートを切りました。

丸山康人学長からの入学許可宣言で始まった式典では、学部生代表の弓場葉月さん、院生代表の古布則子さんそれぞれが入学生宣誓を行い、これからの学生生活に向けて新たな決意を述べました。

教員からのメッセージ　講師　小寺 直美

3年後期になると病院や施設での臨地実習が始まります。実習では、学内で学んできた知識と実際の患者様を通して学びを深めていきます。実習当初は緊張し不安な表情で患者様と接していますが、患者様との関係が築けてくると、生き生きとした表情に変わり積極的な実習が行えるようになっていきます。そして、実習後半になるとコミュニケーション能力が身につき、常に笑顔で関われるまで成長します。また、実習先では卒業生が増え、「私も四看卒業。実習がんばって。」「わからないことは遠慮せずに聞いてね。」と声をかけてもらい、学生からは「私も先輩のような看護師になりたい。」という言葉を聞きます。実習でそのような経験をすると、看護に必要な知識や技術だけでなく学生自身も後輩を育てたいという気持ちが育っているように思います。実習は辛く大変なイメージがありますが、様々な出会いと学びがあり学生は大きく成長していきます。この学びを大切に看護職者として社会に羽ばたいていくことを願っています。

学友会

新入生歓迎会

新入生の入学をお祝いし、4月5日(火)、毎年恒例の学友会主催「新入生歓迎会」を開催しました。新入生たちは、入学式や連日のオリエンテーションで緊張の連続でしたが、ジュースで乾杯したあとは、軽食をとりながら、クラブ・サークル紹介やビンゴゲームのイベントで大いに盛り上がりました。これをきっかけに、先輩や共に4年間を過ごす同級生たちと打ち解けた様子でした。これから新しく始まる大学生活がより良いものになることでしょう。

Yokkaichi Nursing and Medical Care University

平成28年度 教育後援会役員会・総会

今年度は6月4日(土)に開催され、役員会では役員様5名、総会では会員様13名を含め17組18名の方にご出席いただきました。

平成28年度収支予算(案)などの審議事項は原案通り承認され、国家試験対策、就職状況などは資料をもとに詳しく説明させていただきました。また会員様から貴重なご意見やご質問をいただき、本学の教育研究活動、学生生活の様子をお伝えする有意義な時間になったと思います。

役員会・総会の開催は役員様ならびに会員様のご理解とご協力よって成り立っております。この場を借りて、ご多用の中ご出席いただいたみなさまに厚く御礼申し上げます。

なお後日、全会員様宛に総会の資料を郵送させていただきました。

平成28年度 保護者懇談会

9月24日(土)教育後援会主催の保護者懇談会が開催されました。

今年度はあいにくの悪天候ではありましたが、47組64名の保護者の皆様にご参加いただきました。当日のプログラムは、まず全体説明会として本学の教育と学生生活の状況についての説明があり、その後、講演会を実施しました。本年度は、有限会社だいち取締役社長の福本美津子先生をお招きし「地域医療における看護職の役割について」をテーマにご講演いただきました。続いて懇親会として学生食堂にて教員を交え、バイキング形式の軽食を取っていただき、午後からはアドバイザー担当教員と保護者様の個別面談を行いました。

限られた時間ではありましたが、本学の教育の取り組みやご子弟様の学生生活の状況がお伝えできたかと思います。

また、ご記入いただいたアンケート用紙は、今後の更なる発展の為に活用させていただきます。貴重なご意見を賜り感謝するとともに、当日足を運んでいただいた皆様に心から御礼申し上げます。

オープンキャンパス

平成28年度オープンキャンパスが、夏休み期間中の7月23日(土)、8月1日(月)、8月21日(日)に実施されました。今年度も東海地方を中心に多くの高校生や保護者様にご参加いただき、参加者数の合計は昨年を上回る633名となりました。また、参加者の中には、群馬、富山、福岡など遠方地域からの参加もあり、本学への関心の高さがうかがえました。

当日の内容として、午前中の全体説明会では、四日市市健康福祉部長様から本学への支援制度などをお話いただき、続いて大学概要、今年度入試について説明を行いました。その後、学生食堂へ移動しバイキング形式の昼食で学食体験、午後は、模擬講義、看護体験実習、施設見学など自由にイベントに参加いただき、大学の雰囲気を感じていただく時間としました。そして、学生ホールでは入試相談コーナーや、在学生と直接話しができる「先輩と話そうコーナー」を設け、入試や奨学金、大学生活などについて、熱心にスタッフの話に耳を傾ける参加者の姿が多く見られました。

来年度も更に充実したオープンキャンパスにできるよう努めていきたいと考えます。

教育研修の活動について

平成28年度FD(Faculty Development)委員会の活動について

FD委員会委員長　豊島 泰子

平成28年度のFD委員会の活動は、平成27年度と同様に授業評価と教員の教育力の向上を目指しています。本学では、平成25年度から授業評価の見直しをはかるとともに、その集計結果を全教員に示し、その結果を踏まえ専任教員からリフレクションペーパーの提出を求め、リフレクションペーパーを含めた授業評価結果を図書館に、一定期間情報公開し授業改善を図っています。今年度は、閲覧を希望する教員数も少しずつではありますが増加しています。また教員の教育力の向上に向けては、今年度も8月に若手教員を対象とした研修会を実施し、「臨地実習における効果的な学生指導」について情報共有を行いました。また12月には、マザーマップを活用した研究力の向上を目指す研修会を開催する予定です。

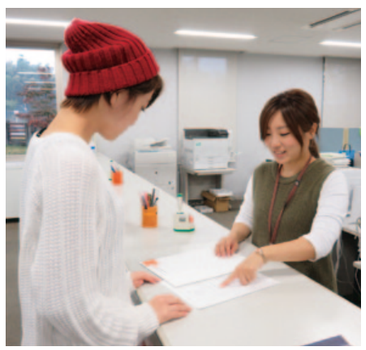
近年、大学は文部科学省からの大学改革で様々な取り組みが求められています。本学も本委員会が中心となり、全学的に教員の教育の質向上に取り組んでまいりたいと考えています。

スタッフディベロップメント(SD)研修について

事務局長　三宅 真一

今年度より、従来の事務職員研修を拡張して教員も対象としたスタッフディベロップメント（SD）研修として実施しております。大学に求められる教育改革は、教育現場のみで解決できるものではなく、組織の見直し等、大学の運営管理を含めた広範囲な取組みが必要とされます。今年度は、「教育の質的転換に資する大学運営」と「３つのポリシーを踏まえた自己点検・評価及び内部質保証」の２つのテーマで、8月3日（水）、4日（木）に実施しました。さらに8月18日（木）には、「高大接続システム改革への対応」というテーマで高校教員も含めた高大連携の合同SD研修を実施しました。いずれも現在の大学運営にとって重要な課題であり、教職員間で率直な意見交換が行われました。また、12月には、IR（インスティテューショナル・リサーチ）に関するテーマで「私学連携協議会みえ」による三重県私学高等教育機関合同のSD研修が予定されています。

教学課紹介



教学課は、本学の教育推進・学生支援センターの事務部門を担う部署であり、平日8:30～18:00（大学院は土曜日8:30～17:00も）窓口業務を行っています。

教学課窓口は、学生と大学をつなぐ窓口といえるかもしれません。教学課の主な業務をあげますと、授業、履修、試験といった教務に関することから、保健、奨学金、就職、国家試験、学友会、課外活動、各種証明書の発行といった学生生活に関することまで、大学生活のほぼ全範囲に関わっています。

そんなわけで、教学課窓口には毎日、多くの学生が何かの用件でやって来ます。提出物の締切を守らない時など、厳しく対応しなければならないこともありますが、教学課の職員は皆、学生たちが快適に大学生活を過ごせるよう、迅速な対応と親切・丁寧な対応を心掛けながら、大学生活をサポートしています。

社会貢献活動

●平成28年度アカデミックセミナー「病院における良い看護とは何か～患者が受ける理想の看護を考える～」

久米 龍子　教授

平成28年7月26日（火）三重県総合文化センターにて開催されました。

「みえアカデミックセミナー」は、三重県内の高等教育機関と三重県生涯学習センターが主催し、「心豊かな人生へのアクセス」という全体テーマのもと、各校がそれぞれの特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーを毎年夏季期間に開催するものです。平成28年7月26日に三重県総合文化センターにて本学にとって9回目の参加となる今回は、久米 龍子教授による『 病院における良い看護とは何か～患者が受ける理想の看護を考える～ 』というテーマで約80名の来場者をお迎えして講演を行いました。講演内容は医療施設などでの看護組織の役割や、入院時の患者がどのような理想の看護サービスを受けることができるかなど、看護業務について幅広く学べるものとなりました。久米 龍子教授の穏やかな口調に会場内は終始なごやかな雰囲気に包まれ、来場者の方々は熱心に聴講されていました。

●平成28年度公開講座「ストレスとともに生きる」

萩 典子　教授

平成28年7月10日（日）じばさん三重5階大研修室にて公開講座を開催しました。「ストレスとともに生きる」をテーマに講師を本学教授 萩典子が務め、約50名の方々にご参加いただきました。参加者の方々はストレスの仕組みや予防法などの講演を熱心に聴き入っておられ、また唾液採取によるストレス度の測定も体験されました。講師へ多数の質問をいただくなど、皆様の関心の高さが感じられ、“なんとかなると思うことは大切なことだと勉強することが出来た、今日来て良かった”他たくさんの感想やご意見を頂戴しました。今後も市民の皆様のニーズに沿ったテーマに基づく講演、セミナー等を考えていきたいと思います。

●高齢者向け生涯学習プログラム2016「笑いと心身の健康法 健康長寿の秘訣は“笑い”にあり」

小林 美奈子　准教授

平成28年9月8日（火）本学B館サロンMIEにて今回で2回目の開催である高齢者向け生涯学習プログラム2016「笑いと心身の健康法 健康長寿の秘訣は“笑い”にあり」を実施いたしました。

当日は台風の悪天候の中、近隣にお住まいの方々を中心に約30名のご参加をいただき、本学 小林美奈子准教授が“笑いのメカニズム”について分かりやすく説明し、ヨガやストレッチなどの実践も織り交ぜながら楽しくお過ごしいただきました。

平成28年度 臨地実習について

今年度の臨地実習は、5月9日（月）初日の4年生の統合実習からスタートしました。この実習は、これまで学んだ知識と技術を統合・応用し、さまざまな看護場面における看護実践能力を高める目的で2週間実施されました。学生は8つの領域にわかれ各自で課題を見つけ、看護実践能力を高めることができたようです。次いで6月には選択科目の地域看護学実習Ⅰ、Ⅱ（保健師課程）、8月には選択科目の助産学実習（助産師課程）が実施されました。2年生は、夏休み明けからコミュニティケア実習、基礎看護学実習Ⅰを行いました。コミュニティケア実習では、保健所、企業、健康増進施設、本学周辺の地域住民の方々の協力を得、地域に出向いて地区踏査を実施しました。この臨地実習では保健師の役割について理解を深めました。3年生は9月12日（月）から各論実習が開始され、平成29年3月3日まで母性・小児・成人・老年・在宅・精神の領域において支援方法について学びます。看護学は、実践の学問（実践の科学）であるといわれており、学問体系と実践体系の両面を持っています。学生は、3年生前期の座学で学んだ知識を臨地実習の場で実践しています。教員は、専門知識・技術のみならず、実習態度など看護専門職として成長できるよう、臨地実習での学生指導に力を入れております。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

教育推進・学生支援センター長　豊島 泰子

基礎看護学実習Ⅰを終えて　看護学科　2年生　小川 誓乃

今回の実習では患者さんは日々変化していくことを感じ、その変化に合わせて常に情報を収集し看護を計画しなければならないと考えました。私の受け持たせて頂いた患者さんは、足腰に痛みがあるため、1日中ベッドの上で生活されていました。日常生活動作の拡大のために歩行を行うことになり、デイルームでの足浴を行いました。デイルームまでの歩行は辛そうな表情をされていましたが、病室に戻る際には「足が軽くなったわ」と笑顔を見ることができ、患者さんのための根拠を持った看護援助の重要性を感じました。またグループのリーダーとして、全体をまとめていくことを行い、初めはうまくいかないこともあり、多くの不安や葛藤がありましたが、次の日はよりよい実習が行えるようにと先生の助言などを受け時間配分など工夫していくことで、グループで協力し合える雰囲気もでき、実習を充実させることができました。この経験から得られた責任感を活かし、さらに確かな知識と技術を学び個別性を考えた安全安楽な援助を提供できる看護師を目指し学習を積み重ねていきます。

成人看護学実習Ⅱでの学び　看護学科　3年生　栗山 葵

私は今回、成人看護学実習Ⅱで市立四日市病院の3AB病棟に行かせていただきました。慢性疾患を持つ患者さんは入退院を繰り返しながら長期にわたる療養が必要となるため、退院後も継続して療養生活を行えるように援助・指導を行っていくことが大切であると学びました。そのためには患者さんの生活についての情報を事前に収集し、患者さん1人1人にあった援助や指導を考えていく必要があります。実習中にはPNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）体制にも参加させて頂きその一員として行動させて頂くことで、看護師さんが患者さんとどのように関わっているのかについて間近で学ぶことができました。今回、実習で学ばせて頂いたことを今後活かしていきたいと思います。

Yokkaichi Nursing and Medical Care University

海外研修

本学では、平成20年3月にアメリカのカリフォルニア州立大学ロングビーチ校との学術交流協定を締結し、毎年約30名の学生が同校を訪れて海外研修を実施しています。

この海外研修のプログラムは、英語を学ぶ学術研修とアメリカの看護について学ぶ看護研修から構成されています。

今年は、2年生12名が7月31日から8月15日までの約2週間、カリフォルニア州ロングビーチ校での海外研修に参加しました。生活スタイルや習慣も異なる生活文化を肌で感じるとともに、海外ならではのよりよい友情関係を築くことが出来たようです。

私は海外研修に参加し、CSULBで授業を受け、医療システムを学び、様々な施設を訪ね、異国の方と交流する中で、日本との違いについて気づくことや、自分の知らなかった世界を見ることが出来ました。

老人施設や病院見学では利用者さんとコミュニケーションを取り、買い物ではみんなで英語を思い出しながら、店員さんに質問しました。現地の人はとても優しく、ゆっくり話を聞いてくれて、一生懸命理解をしようとしてくれました。自分たちの英語を理解してもらいコミュニケーションを取ることが出来た時はとても嬉しく、英語を話す楽しさに気づきました。また、アメリカで働く日本人看護師さんの講義を受け、海外で働く上で良い点や大変だと感じた点などの貴重なお話は自分にとって、とても刺激になりました。自分の人生に自信を持って、積極的に生きている姿が素敵だと感じました。

フリータイムでは、水族館やディズニーランド、３つのビーチ、ショッピングモールなどを満喫しました。

家族や友達同士での旅行では体験することが出来ない経験をたくさんさせてもらいました。一緒に２週間過ごしたメンバーとの絆も今まで以上に深まり、楽しい時間でした。最高の思い出ができました。　【近藤 加奈】

今年度の海外研修参加者は例年より少なく、12名でした。

海外に行った経験のある学生さんも、この研修が初めての海外という学生さんもいましたが、2週間の海外生活は皆初めてでした。旅行ではなく研修ですので毎日英語の予習復習があり、日本から持ってきた課題もあったようで夜遅くまで課題にも取り組んでいました。最初は時差の影響、長旅の疲れもあり、ぐったりとしていましたが、生活に慣れてくると次第に活動的になり、行動範囲も広がっていきました。私たちが滞在していたロングビーチは海辺のとてもきれいな町でした。しかし、日本から持ってきた観光本にロングビーチのことは載っていませんでした。でも、スマホを上手に活用して自分たちが行きたいところを調べて、出かけた先での話を聞かせてくれたり、沢山の写真を嬉しそうに見せてくれました。勉強も遊びも全力で楽しむ学生さんの若さとパワーを羨ましく思いました。学生さんの日々の成長を間近で感じることができた有意義な研修でした。　【講師　別所 史子】

よんよん祭

テーマ
「Peace ～ begin with a shining smile ～」

2016
10/29 sat ▸ 30 sun

本学大学祭も今年で10回目、四日市大学と共同開催として8回目を迎えた「よんよん祭」が10月29日(土)、30日(日)に開催されました。

当日は、模擬店、カラオケ大会、○×クイズ、お笑いライブのほか、子どもたちを対象としたイベントなどで、来場者を楽しませていました。

看護大学ならではの企画として、基礎看護学実習室では、手指衛生体験や看護クイズ、今年新しく設立された救命部では、いざという時のためのAED講習を行い、多くの方に参加していただきました。

今年も「よんよん祭」に、地域の皆様をはじめ、両大学の卒業生の方々にたくさんお越しいただき、無事終えられましたこと、感謝申し上げます。

私たちは、昨年も実行委員として大学祭に携わっておりましたが、今年は大学祭実行委員長や各企画の責任者として準備を進めていくなか、先頭に立って動くことの難しさや大変さを知り、これまで大学祭を成功させてきた先輩方の偉大さを、改めて痛感いたしました。

今年は大学祭実行委員の人数も多く、それぞれの意見をまとめるのは大変でしたが、これらを準備し、参加するなかで、また普段とは違った自分の力を発揮する良い機会になったのではないかと感じております。

今年のテーマのとおり、「平和」は「輝く笑顔ではじまる」、たとえ辛いことがあっても笑顔でいれば幸せは訪れると確信しています。誰もが笑顔でいられる社会が「平和」といえるのではないでしょうか。

当日は、皆様の顔が「輝く笑顔」で溢れておりました。これからもこの笑顔が、皆様の幸せへと繋がれば幸いです。

四日市看護医療大学 学友会会長・大学祭実行委員長　**田中 沙依**
学友会副会長・実行委員　**妹尾 百香**

こころの健康づくり講演会　講師　矢野 きよ実 様

学生はこころの健康について、専門家としてどのような支援ができるのかを学んでいます。今回、8月に四日市文化会館で「誰も一人では生きられない」というテーマでこころの健康づくり講演会が開催されました。講師は中部地方では有名な矢野きよ実さんで軽快なトークで始まりました。3、4年生の学生10名と精神領域教員がボランティアとして参加しました。

矢野さんは東日本大震災後からご自身のライフワークである書を通して、被災した子どもたちを支援しています。子どもの思いがこころから腕、手、そして筆から字となりました。閉ざされた子どものこころの叫びや思いが書によって引きだされ、多くの人に伝えられました。学生は舞台上で、子どもたちが書いた書を持ち、矢野さんが紹介するお手伝いにかかわることができました。「わすれないで」と書かれた子どもの書はこころに響きました。学生たちはいろいろな方法でこころの支援ができることを知り、貴重な体験になったようでした。そしてまた、学生の人間としての成長を見守りながら、今後も専門家としてこころを支援する活動に携わっていきたいと感じました。

よっかいちキャンサーリボン実行委員会

平成28年9月11日に第6回がんアクションプロジェクト～がんを知ろう～が開催されました。当日は天候にも恵まれ、136名の方に参加して頂くことができました。第1部では、「生活を見直して大腸がんを予防しよう」のテーマで本学の学生が発表を行いました。四日市市は大腸がんの年齢調整死亡率が全国平均よりも高いため、大腸がんにならないためにどのような食事を選べばよいか、適度な運動をどのように生活のなかに取り入れていけばよいか、学生が実践し、その感想を踏まえてわかりやすく説明していました。60%以上の参加者から「わかりやすかった」と回答して頂くことができました。

第2部は四日市市の保健師によるコーラス、第3部では中外Oncology学術振興会議の土屋政幸氏の「がんを知ろう!がんの基礎からくすり創りまで」の講演がありました。最後に行った抽選会でも、学生が司会進行し、参加者が一体となって楽しいひと時を過ごすことができました。

リーディング産業展出展　みえ産学官研究交流フォーラム2016に参加

「みえ産学官研究交流フォーラム」は、研究の交流や地域産業の活性化を目的として、県内の教育研究機関や支援機関との産学官連携を推進するものです。

昨年に引き続き、キャンサーリボン実行委員会のメンバーでもある学生ボランティアとともに今回で2度目の参加をさせていただきました。

“がん検診率を上げ四日市市内でのがんの早期発見を図ろう” “大腸がんを予防する生活習慣” この2つのテーマを基にフォーラムに参加されている方々に向けてそれぞれの説明をさせていただきました。

皆様のがんへの関心は高く熱心に聞きながらも様々な質問をされ、学生もこれからの医療従事者としての自覚を高めながら、誇らしげに対応していました。

就職・進路状況 四日市看護医療大学2015年度(2016年3月)卒業生

■就職率99.1% 国および公的医療機関に多数就職

平成27年度卒業生はそれぞれの看護の道に羽ばたいていきました。

●就職先について(開設者別)

国(国立病院・国立大学付属病院・労災病院・JCHO病院)、公的医療機関(県立病院・市立病院・公立大学付属病院・赤十字病院・済生会病院・JA厚生連病院)、三重県(行政保健師)等で全体の８割を占め、公的な職場への人気の高さが窺えます。

●地域別について

本学所在地である三重県への就職者数が約６割を占め、今年度も看護職の充足率が全国平均を大きく下回っている三重県や四日市市からの期待に応えることができました。

●実習先病院について

実習先病院に約４割が就職しており、本学の教育と就職が密接に関わっていることを裏付ける結果となりました。

2025年、団塊の世代が75歳以上になり、日本は4人に1人が後期高齢者という極度の高齢社会を迎えます。これにより、さまざまな問題が発生することが予想され、国は、2014年度の※診療報酬改定で、医療提供のあり方を、病院・施設中心のものから在宅中心のものへと大きく舵を切りました。看護師の職場環境も大きな転換期を迎えようとしており、本学としても、今後の動向に注視しつつ、引き続き、適切な学生支援につとめてまいります。

(※診療報酬改定:医療機関の診療に対して保険から支払われる報酬の改定で2年毎に見直される)

●2015年度 就職・進路状況 (2016年3月卒業者)

項　目	卒業者	就　職		
		就職希望者	就職者	就職率
合　計	112名	112名	111名	99.1%

国家試験合格率

◆看護師:99.1%(合格者111名/受験者112名)
◆保健師:92.2%(合格者47名/受験者51名)
◆助産師:100%(合格者8名/受験者8名)

地域別就職先

三重県	市立四日市病院(34名)　三重県立総合医療センター(7名)　三重大学医学部附属病院(4名)　伊勢赤十字病院(3名)　桑名西医療センター(3名)　済生会松阪総合病院(3名)　四日市羽津医療センター(2名)　大仲ざつき病院(1名)　市立伊勢総合病院(1名)　鈴鹿病院(1名)　松阪市民病院(1名)　三重県職員(保健師)(2名)
愛知県	名古屋第一赤十字病院(5名)　藤田保健衛生大学病院(5名)　名古屋市立大学病院(4名)　愛知県がんセンター中央病院(2名)　協立総合病院(2名)　名古屋第二赤十字病院(2名)　藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院(2名)　愛知県精神医療センター(1名)　あいち小児保健医療総合センター(1名)　安城更生病院(1名)　岡崎市民病院(1名)　春日井市民病院(1名)　公立陶生病院(1名)　城西病院(1名)　聖霊病院(1名)　名古屋掖済会病院(1名)

三重県・愛知県以外

千葉県	東京歯科大学市川総合病院(1名)	長野県	飯田市立病院(1名)	滋賀県	公立甲賀病院(2名)
		岐阜県	松波総合病院(2名) 市立恵那病院(1名)		
東京都	東京都立駒込病院(1名) 日本赤十字社医療センター(1名)	静岡県	磐田市立総合病院(1名) 静岡市立静岡病院(1名) 静岡赤十字病院(1名) 袋井市立聖隷袋井市民病院(1名)	大阪府	大阪医科大学附属病院(1名)
神奈川県	横浜労災病院(2名) 北里大学病院(1名)			兵庫県	兵庫県立光風病院(1名)

平成27年度卒業生より卒業記念品を頂きました

平成27年度卒業生より、新生児バイタルサインモデルと血圧測定トレーナを記念品として頂きました。

今後、演習をさらに充実させ、実習等に活用しながら大切に使わせていただきます。ありがとうございました。

サロンMIEについて

サロンMIEは、三重県高等教育機関向上支援補助金事業に採択された企画のひとつで、平成28年3月24日に四日市看護医療大学B館にサロンを開設し、オープニングイベントとして「浅尾美和が語るふるさと三重の魅力」を同時開催いたしました。

当日は学生をはじめ地域の方々などいろいろな世代の方にご参加いただき、浅尾さんの三重弁の話やビーチバレーによって培われた精神力の話など、終始笑い声や驚きの声に包まれて楽しく終えることができました。

今後サロンでは在学生や卒業生に三重県に関する資料の閲覧や本学企画の毎月のイベントを案内し、また在学生や卒業生のミーティングや休憩ができる癒し空間として機能するよう運営します。

在学生、卒業生の皆様のご利用をお待ちしております。

暁学園 宗村南男理事長逝去

宗村南男理事長におかれましては、病気療養中でしたが、去る4月20日、77歳をもって永眠されました。23日には合同葬儀が行われ、多くの方々が最後の別れを惜しまれました。

理事長は、暁学園綱領「人間たれ」の理念のもと、長年にわたって幼稚園から大学院までの総合学園である暁学園を率いてこられました。学園の各校の運営に対しては、決して押し付けをされるでもなく、それぞれの学風を尊重しつつ、その教育理念を貫いてこられました。それは、学園の子供達、生徒、学生、卒業生、そして教職員の心と行動様式に確実に受け継がれ、地域貢献の礎となり、今後も永く活き続けることでしょう。「人間たれ」の理念は、理事長の「人を本当に大切に思う」お考えや行動様式として現れ、誰しも共感し、学ぶべきものでした。長年の御尽力への感謝の念とあわせ、ご冥福をお祈り致します。

河野啓子賞、宮﨑徳子奨学金、長江拓子奨学金授与式

本学には、学生の模範となる卒業予定者を表彰する「河野啓子賞」、学業、人物ともに優れ、本学および社会への貢献が顕著と認められる者へ奨学金を給付する「宮﨑徳子奨学金」「長江拓子奨学金」があります。これらは、本学初代学長の河野先生、現在、学長補佐で初代学科長の宮﨑先生、本学顧問であった長江先生、3名の先生方のご寄付により始まりました。

「宮﨑徳子奨学金」「長江拓子奨学金」表彰式は本年6月に行なわれ、丸山学長、豊島学科長、久米学生生活委員長立会いのもと、学生たちは緊張した面持ちながらも、宮﨑学長補佐の厳しくも温かいお言葉に、今後より一層、学業等に励み、他の学生の模範となるべく気を引き締めておりました。

なお「河野啓子賞」表彰式は、来年2月に実施される予定です。

HPリニューアルいたしました!!

いつも本学のウェブサイトをご訪問いただき、誠に有難うございます。

この度、デザイン事務所オフィスヒロトモさんのご協力を得て、7月1日にウェブサイトをリニューアルいたしました。

リニューアルの一番大きなポイントは、スマートフォンやタブレットなどの端末に対応可能なレスポンシブWebデザインに変更したことです。

他にも、卒業後の活躍を広く知っていただくため、就職・進路のコンテンツをトップページに配置したことや、NEWSの即時性を高めるためWordPressを導入するなどの内容の刷新と、写真や画像を増やし、ビジュアル面での充実を図りました。これにより利便性・視認性の向上につながったことと思います。

今後とも、より見やすく、より大学の魅力が伝わるウェブサイトとなるよう、運営を進めて参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

RUN伴に参加しました!

RUN伴(RUN TOMO-RROW)は認知症の方や家族、支援者、一般の人が少しずつリレーしながら、1つの襷をつなぎ、ゴールを目指すイベントです。本学も賛同させていただき、今回で2回目の参加となっております。

9月29日(木)8:30、四日市看護医療大学を出発し、次の中継地点までの2.5kmを本学学生7名と職員5名の計12名が走り、10月1日(土)は、三重県立津高等学校を10:25に出発し、津西部市民センターまでの2.5kmを本学学生(4年生)が当事者の方(82歳)と走りました。

両日共に無事に襷を次へつなぐことができ、幸甚の至りです。

健康コラム 認知症予防のカギは生活習慣にあり

認知症は、脳細胞が壊れたり働きが悪くなったために、さまざまな障害が起こり日常生活に支障をきたす病気です。一度発症すると完治が難しいといわれるだけに、予防が何よりも重要です。近年、認知症の発症に生活習慣病が大きく関連していることが分かってきました。認知症の発症リスクを高める病気として挙げられるのは、糖尿病、高血圧、コレステロールなどの値が高まる脂質異常症、肥満症などです。単独でも認知症の危険性は上がりますが、重複すればさらに認知症の発症リスクは高まります。また、老年期のみならず壮年・中年期で糖尿病や高血圧症などを患った人もリスクが増します。生活習慣病は、偏った食生活や運動不足、ストレス、過剰な飲酒や喫煙などの毎日の生活習慣の積み重ねによって引き起こされます。若い内から毎日の生活習慣を見直し改善することは、生活習慣病はもちろん、認知症を予防する大きな力になります。すでに生活習慣病を発症している人は治療を継続し悪化を予防していくことが大切です。

研究科長　福原 隆子

本年度 学位記授与式

平成29年3月11日(土)　四日市都ホテルにおいて挙行する予定です。

四日市看護医療大学学報 No.10　[発行日]平成28年12月20日　[発　行]四日市看護医療大学　庶務課
〒512-8045 三重県四日市市萱生町1200　TEL.059-340-0700　FAX.059-361-1401　http://www.y-nm.ac.jp/